

4月28日 ヨハネによる福音書 15章 18～27節

「証しをするために」

先週の教会総会で、2024年度の目標として、「この世へと漕ぎ出して伝道を行う」という言葉を挙げました。だからこそ、良かったら今日のこの説教要旨は大事に保存しておいてください。そこまできちんとしたことが書けていると断言はできませんが、皆様が説教を作るとき、奨励や証しをするときに役立つような、「伝道に役立つ」内容にまとめてあります。

流れとしては、まずは聖書箇所を決めます。これは、日本キリスト教団の聖書日課に従っても、自分で決めてもかまいません。そして決まった聖書箇所を何度も読みます。基本的に、語る言葉は全て聖書を読んだことによって思いついた言葉を用いることになります。また、参考になる本があれば読むのもいいと思います。もしちょうどいい本をもっていない場合は教会にある本や、牧師が持っている本を頼って下さい。言っていればよさそうな本を探してみます。ここまでが準備の段階で、あとは文章を書き始めることになります。

文章の長さはあまり気にしないでください。大切なことは、最初から最後まで「聖書の言葉・神様の御心をそのまま届ける」ことを覚えておくことです。聖書の言葉自体を説く説教であっても、伝えたい思いを聖書を通じて語る証しであっても、その土台に御言葉があることを意識しておくことが大切です。そして、思いついた言葉をすべて紙に書き出して、つなげていくだけで少しずつ形になっていきます。最終的には何度も読み直して言葉の流れがおかしくないか、変な言葉遣いになっていないか、何より聖書の言葉に反した内容になっていないかを確認して、証しの完成となります。

このような形で、証しや奨励であれば、御言葉が自分にどのような影響を与えたのか、御言葉にどう勇気づけられたのか、聖書との出会いが自分の人生にどれほど大きな意味があったのかを中心に話を書き始めてみてください。そしてそれが説教であれば、御言葉の働きを実感した中に「自分一人にだけ働くこと」だけではなく、「信徒一人一人に同じように働くこと」を見つけてみてください。その視点はやがて「あなたがたは行って、すべての民をわたしの弟子にしなさい。彼らに父と子と聖霊の名によって洗礼を授け、あなたがたに命じておいたことをすべて守るように教えなさい」というイエス様の言葉の通り、「すべての人」へとむけられていくことになります。

これらのポイントを踏まえながら、そして何よりも「聖書の言葉・神様の御心をそのまま届ける」ことを大切にしながら、ぜひ皆様一人一人だからこそできる証しを、説教を作ってみてください。「あなたがたも、初めからわたしと一緒にいたのだから、証しをするのである」とイエス様が言うように、人生の始めから終わりまで私たちと主にいてくれているイエス様のことを一人でも多くに伝えるために、証しを言葉にしてみましょう。

私たち自身が御言葉を証しするように生き、必要な時に証しをすることができるように備えておく。それをいつでも、どんな時も行い続けるのが、私たちが「キリスト者として生きる」ということなのだと思います。イエス様を、神様を証しするためのこの信仰の人生を、特にこの一年間意識をしながら、共に歩んでいきましょう。

今日の説教箇所：ヨハネによる福音書 15 章 18～27 節

- 18: 「世があなたがたを憎むなら、あなたがたを憎む前に私を憎んだことを覚えておくがよい。もしあなたがたが世から出た者であるなら、世はあなたがたを自分のものとして愛するだろう。だが、あなたがたは世から出た者ではない。私めがあなたがたを世から選び出した。だから、世はあなたがたを憎むのである。『僕は主人にまさるものではない』と、私が言った言葉を思い出しなさい。人々が私を迫害したなら、あなたがたをも迫害するだろう。私の言葉を守ったのであれば、あなたがたの言葉をも守るだろう。しかし人々は、私の名のゆえに、これらのことをみな、あなたがたにするようになる。私をお遣わしになった方を知らないからである。私が来て話さなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、彼らは自分の罪について弁解の余地がない。私を憎む者は、私の父をも憎む。誰も行ったことのない業を、私が彼らの間で行わなかったなら、彼らに罪はなかったであろう。だが今は、その業を見て、私と私の父を憎んでいる。しかし、それは、『人々は理由もなく、私を憎んだ』と、彼らの律法に書いてある言葉が実現するためである。私が父のもとからあなたがたに遣わそうとしている弁護者、すなわち、父のもとから出る真理の霊が来るとき、その方が私について証しをなさるであろう。あなたがたも、初めから私と一緒にいたのだから、証しをするのである。